

# AI笑顔検知寄付によるときわ公園のウェル ビーイング度可視化と向上事業

## 【中間報告】

実施期間：令和5年5月～9月

一般社団法人One Smile Fountion



## 3-1. 実証事業内容（概要） その1

|  |  |
|--|--|
| <b>背景・課題</b>                             | <p>岸田内閣が進めるデジタル田園都市国家構想において、スマートシティを進める中、人間を中心としたデジタル活用としてウェルビーイングの実現がテーマとなっている中、これまでの幸福度調査はアンケートを中心としたものであり、未就学児や障害者などのアンケートに答えられない方々の意見は事実上切り捨てられている現状があります。</p> <p>ウェルビーイングやSDGsの「誰一人取り残さない」社会を実現する上で、いかにそれらの方々の意見も従来の指標に加えていくことことでインクルーシブは社会を実現できるかが課題となっている。</p>  |
| <b>実施内容</b><br><br>※具体的に<br>記載して<br>ください | <p><b>【何を実施するのか】</b><br/>ときわ公園施設内（植物園、遊園地、動物園など）に、監視カメラ型笑顔検知カメラを設置し、これまでスマホやタブレット限定で笑顔検知を行ってきた事業内容に対し、外部カメラやデジタルサイネージと接続することで、盗難や通信不正利用等に対するリスクを排除したデバイスの開発検証を行います。</p> <p><b>【何のために、どこで】</b><br/>①これまで他の自治体ではスマホやタブレットを用いて笑顔検知を行ってきたことに対し、屋外や商業施設などでは、盗難や通信不正利用、電源の確保などから限られた場所での設置が行えませんでした。それらに対し、監視カメラ等の外部カメラとシステムを連携させることで、より多くの設置箇所を展開できるようにします。<b>設置台数 2 台</b><br/>②また、弊社事業のコンセプトが、笑顔を寄付に変えることであることから、寄付という利他行動によってウェルビーイングの向上にも寄与することで、日本初の笑顔検知及び寄付を行う公園として、ときわ公園の魅力向上に貢献します。<br/>③寄付先はを子ども食堂や障害者支援等に充て、同様にそれら寄付先でも笑顔検知を行うことで、笑顔の幸福の循環と拡大を行います。</p> <p><b>【誰が、誰と、いつまでに】</b><br/>上記の目的を、2023年度内に中電工株式会社様を筆頭とした各協力会社と連携の下、随時実証を開始していきます。</p> |



### 3-1. 実証事業内容（概要） その2

|  |   |
|--|---|
| <p><b>成果と評価</b></p>                                | <p>◆想定される成果<br/>                 スマホやタブレット以外の笑顔検知デバイスの新規開発<br/>                 ときわ公園内、施設利用者数に対する笑顔発生率の可視化</p> <p>◆評価指標<br/>                 KPI ①スマホ同等もしくはそれ以上の笑顔検知率（距離、人数、面積）<br/>                 ②人流、施設利用者数に対する笑顔発生率<br/>                 目標数値 ①距離 7 m以上、人数複数人、面積<br/>                 ②50%</p> |
| <p><b>事業の<br/>新規性・<br/>先進性</b></p>                 | <p>AIによって笑顔を検知し、これまで数値化されていなかった幸福に関する笑顔の数を可視化することで、アンケートなどの意識調査とは別に、実態指標としての生成が実現できます。また、その数の分だけを寄付に変える、ビッグデータの活用事例は、日本のみならず世界の中でも前例はありません。</p>   |
| <p><b>実証事業者の<br/>強み・優位性</b></p>                    | <p>デジタル田園都市国家構想の実現において、日本のWell-being指標を作るスマートシティインスティテュートと協定を締結し、特許を取得していることから、希少性模倣困難性において、高い参入障壁を持つことで優位性を確立しています。</p>  |
| <p><b>事業化可能性<br/>(社会実装・<br/>市内への展開)</b></p>        | <p>スマホやタブレット以外のデバイスを開発することにより、屋外や商業施設などの盗難リスク等にも耐える事業フィールドを開拓できます。また、弊社既存事業である介護や保育、幸福度調査のモデルが確立される中で、モニターを表示を通じて、笑顔検知の際に表示されるスマイルサークルを企業のロゴなどの広告として置き換えることで、これまでにない広告プラットフォームを構築します。</p>   |
| <p><b>市内事業者、<br/>地域団体・<br/>学校等との<br/>連携・協働</b></p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>宇部市の発行する「はつらつ健幸ポイント」との連携（加古川市で失効ポイントを寄付原資に供給しています）</li> <li>笑顔の拡大と循環を作る上で、学校や現地NPO、その他地域団体とは積極的に連携を図っていきたいと思っています。</li> <li>山口大学や高専と連携させて頂いて、ワークショップ等を行うことで、新たな産業の可能性を探ります。</li> </ul>   |

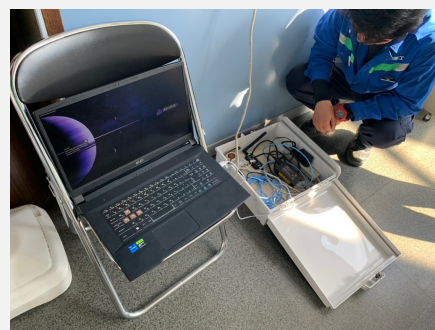


### 3-1. 実証事業内容（概要）その3

## 合計2ヶ所設置

レストハウス前

植物館



<主体事業者>

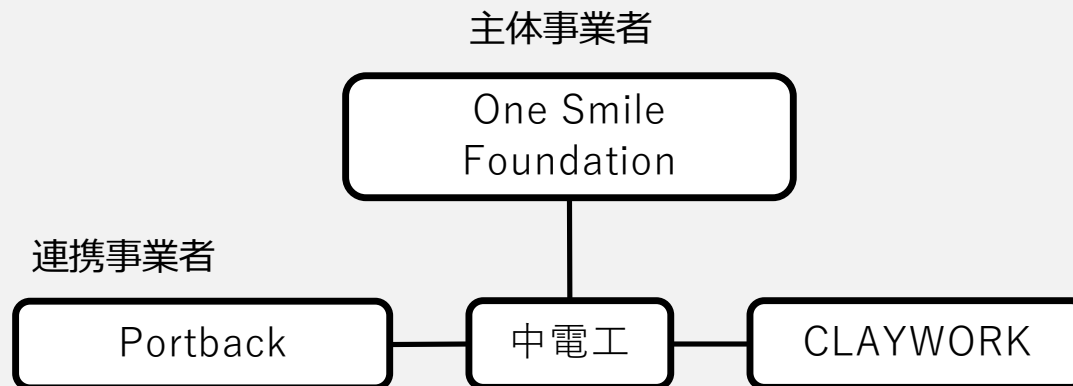
一般社団法人 One Smile Foundation … 本事業の実施

<連携事業者>

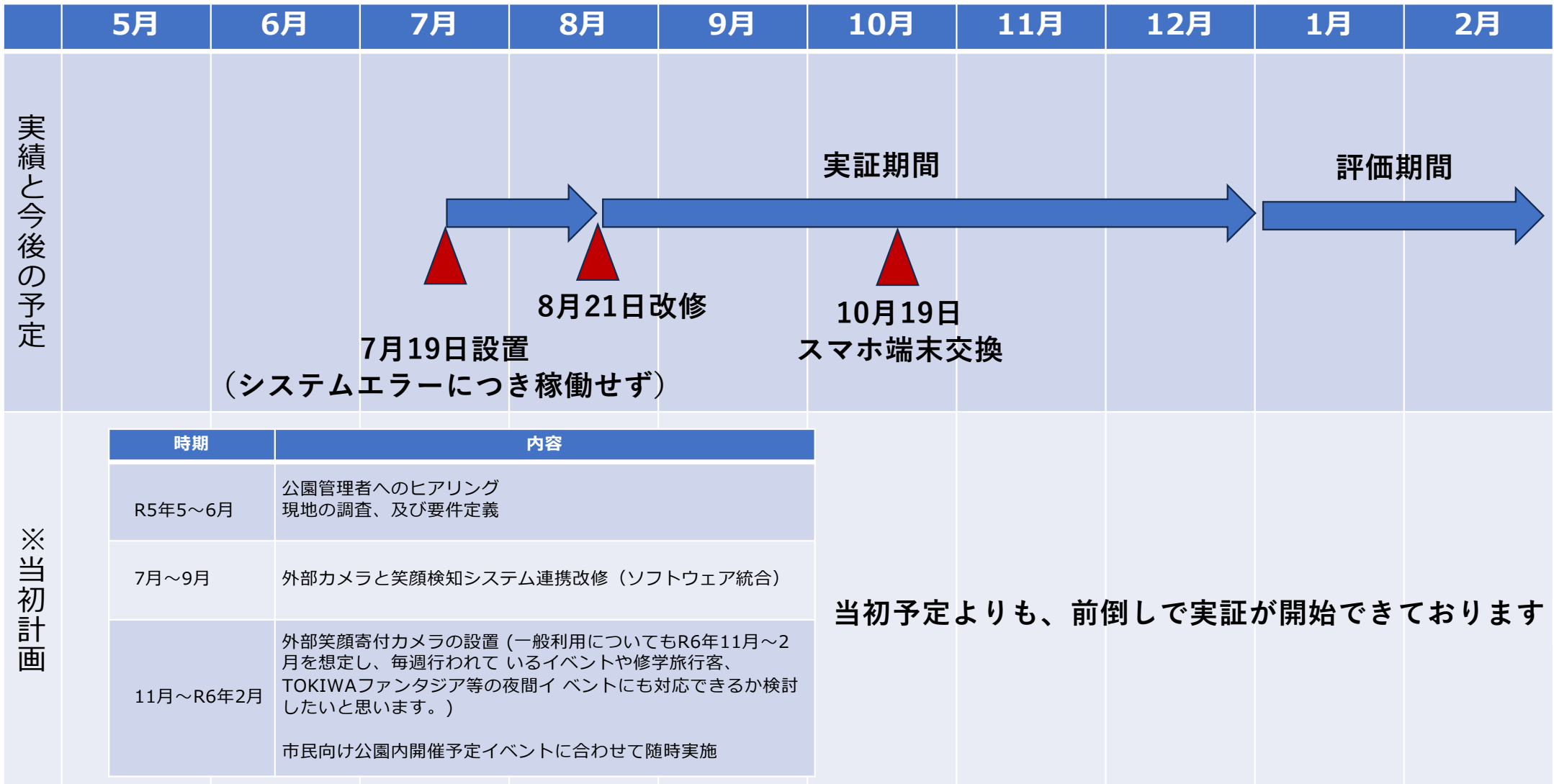
株式会社 中電工 … 屋外用、笑顔寄付カメラの共同開発

Portback株式会社 … 屋外用、笑顔寄付カメラの共同開発

CLAYWORK合同会社 … 屋外用、笑顔寄付カメラの共同開発



# ■ ■ スケジュール ■ ■



### 測定データ状況

- 笑顔検知数：4250回/43655人
- 笑顔率：9.7%(10月16日時点)
- 検知距離：約5mを確認

### 10月16日現在における所感

一部、システム稼働のためのエラーはあるものの、外部カメラとして十分に計測が出来ている。今後の取り組みは寄付先を決定すること（子ども食堂を想定）。その他、イベント等に対する計画、事業化について検討を行う。

